

ハイジャック機撃墜法

賛成26票 反対62票

御嵩町の県立東濃高校で二十一日、選挙で投票する大切さを学ぶ前講座があった。模擬投票が行われ、候補者役の町職員のユニークな主張に耳を傾けながら一票を投じた。
(神合慶)



格差社会や「ポテトチップス税」について意見を戦わせる候補者役の2人（両端）

町選管が、総務省が二〇一七年度に始めた「主権者教育アドバイザー派遣制度」を県内で初めて活用。三年生を対象に選挙権への理解を深めてもらうとともに、外国籍の生徒にも日本の政治の仕組みを学んでもらおうと開いた。名古屋

屋経済大法学部（愛知県大山市）の高橋勝也准教授（左）が講師として来校した。

模擬投票はポスターも掲示し、国政選挙の候補に扮した選挙書記二人が、高橋さんのインタビューを受ける形で主張を展開。経済的に平等な社会を目指すか格差社会を容認するか、実際にハンガリーである塩分や糖分の高い食品に課税する「ポテトチップス税」の導入と、過去にドイツで成立した、ハイジャック機を撃墜できるとする航空安全法への是非を争点にした。

生徒八十八人が本物の投票箱に投票。無効票や白票などはなかった。「みな平等に生まれたので稼ぎも平等に。どんな状況でも人の命を奪うことは許されず、ハイジャック機撃墜法に反対」と訴えた候補が六十二票を獲得し、「頑張る人は頑張るべきで、格差は仕方

東濃高生が模擬投票

ない。より多くの人を救うためにハイジャック機撃墜も仕方ない」と主張した候補の二十六票を上回った。

高橋さんは「あなたが一票を入れても選挙結果は変わらないが、みんなが選挙に行くことが、選ばれる代表者の脅威となる。みんなの一票は総理大臣さえコントロールできる」と選挙への参加を呼び掛けた。

投票箱が空かを確認する役割を任された石本航さん（右）は、「自分の一票では政治は変わらないと考えていたけど、講義を聴いて一票の力に改めて気付けた。来年の参院選にはきつと行きたい」と話した。



2人の候補者役の主張を聞いて1票を投じる生徒たち=いずれも御嵩町の東濃高で

総務省アドバイザー派遣 御嵩町選管、初の活用